

… 雨でも休まず：第129回、第130回 …

「若柳・嵐山の森」から

- 活動1：森林整備班はお休み…、5月 1日(第一土曜日)
 - * それぞれの森を楽しむ。 参加費300円
- 活動2：里山交流の活動、 5月16日(第三日曜日)
 - * 森林整備班は、伐倒木の搬出。山本、頼むぜ。 参加費500円
 - * 主食のみ持参／副菜に旨いもの食わせる。 会員以外700円
 - * お昼休み／新緑：森の中の音楽会：シタールとタブラ(小太鼓)。
 - BBC放送にも出演したスシャマさんの名演奏。
 - タゴールの詩の朗読・唱和も…。
- ◎ ボランティア保険“必ず申込”。T&F 03-3411-1636
- 初参加：JR相模湖駅前：9時15分まで。090-7260-8101（緑のダム）
- 服 装：汚れて良い格好、着替え。 足元の滑らない履き物。
- 持 参：保険証の写し。作業を楽しむ“ゆとり・怪我をしない心構え”

「森林の可能性」

- 安い輸入材にやられて“国産材は駄目だ・無理”と手を入れず森は、荒れる一方だ。外材のせいにして“困った、何もできない”と戦わずして負けが諸悪の根源。建築だけじゃない。無気力・マイナス発想からは何も出てこない。
- 「馬鹿、言うんじゃ無いよ、森林は無限の可能性」。

“森をいかす／FCC事業”の初年度15年度は、森林資源の活用で総収入の19.7%を心ある森仲間たちが叩き出してくれた。

即ち、間伐材兼松人形、西養蜂園、和智ベンチ、加藤吉道エコツアー、斎藤緑のダム学校、須藤木質バイオエネ開発など。
- 流域材も正常な流通を計れば坪単価45万円で純国産材の家が建つ。間伐材パルプ、リグニン布、バイオ細菌新薬、炭の超高温高压加工。その先が未だ未だ、あるある。今年は、総収入の30%に引き上げるぞ。森の経済性は無限。

● 活動報告1：森林整備に特化／第一活動日／4月3日（第一土曜日）

- 穏やかな晴れ、桜満開。31名。

県との“協力協約”的検査はOKだが、完成度に自らが納得しない仲間が念入りに仕上げの枝打ち作業に汗していた。ボランティアだからする仕事意気。大雪害の崩落急斜面の整地も一段落した。他の仲間たちは、枝打ち針葉樹林の林床整理に取り組んだ。

- FSC推進班：生態系調査班は、余裕の観察用巣箱をB地区三叉路6m杉に楽しげに取り付けていた。何んでも、去年に取り付けた巣箱に“ムササビ”が居付いたそうだ。その写真を藤島仲間が撮った。
- 昼やすみ、時間の合間に苗木畑を見に行ったら“つくしん坊、がニヨキニヨキ”と出ていた。
「よし、次の活動日には仲間に“つくしん坊の卵とじ”を食わせるぞ」と大量収穫。春うらら。
- この日、作業にも初参加の県森連の井手部長他、桂川・相模川流域の有力林業家3名は、当会活動に驚いた。プロの林業家と森を生かす協力を話し合った。これら全て、森の真実が準備してくれる。

*同日4日：運営会：4月～11月の運営会は作業終了後、森の基地、炭窯広場でする事とした。ここでなら快適、知恵も浮かぶ、カドヤ会議にフケる仲間も出なくなる、一挙数得なり。

- 間伐材活用計画：森に転がしている伐倒木を活すために搬出手順を決めた。園田隊長が指揮する。
- 苗木の救出移植作戦：順調に推移している。大日向副隊長が指揮する。西君、心配するな。
- FSC推進班；これら作業・その他の活動写真を藤島仲間が記録する。記録は、重要な認証条件。

● 活動報告2：里山交流の日／第二活動日／4月18日



巣箱を掛ける篠田指導員

- 湖畔対岸向こう、マダラ模様の広葉樹の新緑が美しい。67人参加。終日晴れ。

- 森林整備班は、早出して栎の木の移植作業に取り組んだ。掘り出した苗木を濡れ古新聞に包んで背負い子に背負って崩壊跡

地まで担ぎ上げた。26人が参加した。

植林の数は、僅かだが昔の人は、これを何千本・何万本担ぎ上げ植えた。この日、余程、気合いを入れたと見えて移植作業は、早めに終わって下って来た。こんな大切な事を金にならないからと今は、何の工夫もせず放置している。森を粗末にする“この罰当たりが”。

- 午後、森林整備班は、「伐倒木の搬出班」・「新緑5月／森の中の音楽会場つくり班」に取り組んだ。

森はますます、美しく、楽しく、優しくなってくれる。

- 森の庭園のお花畠が美しい。造園班がせいを出していた。
ガーデニング・カリキュラム準備中。

- 「緑のダム体験学校：第9回」に津久井青年会議所・エコ青年体・一般般参加の13人が受講。

斎藤校長の指導の下、生態系調査班が核となって“楽しい・面白い・為になる学校”は、時間を超過して進められた。遅れて参加した最後の「本日の成果会」で全員が“面白かった、良かった、また来る」と言った。

- 生態系調査班=FSC推進班が「森の地図」を作ってくれた。ベテラン班も新人班も「こんなのが欲しかった」とその地図を囲んで“ああだ、こうだ、こうよ、そうだったのか”と鳩首会談。



働く人（富沢仲間）の姿は美しい。



「森林：緑のダム：募金箱」を古川仲間(鶴)預けた

- 東急グループの経営するコンビニに「緑の募金箱」を置きたいとの申し入れを受けて。この森の木を使ってその箱を作る事にした。森仲間：畠野仲間が作ってくれた。

- 本当に今日も良かった。森に感謝。

● 活動報告3：北鎌倉 「匠の市」 4月3日～4日

「鎌倉・森つくりの会」を計画している兼松仲間がその前哨戦として鎌倉五山：東慶寺で開催された「匠の市」に“NPO法人緑のダム北相模”として協賛参加した。兼松仲間は例の如く会活動費を捻出せんもの上檜チップで「ヒノキ香り枕」を考え売り出した。建具組合も協力製品を出してくれた。

グタグタ言わず、黙って結果を出す兼松仲間、斎藤仲間、加藤仲間、沢山の森仲間が活動を生



き生きしたものにしてくれる。下界都市に出かける活動では、鋸引き体験が定番だが当然、列ができた。参加費を取るか…、などつまらぬ欲がもたげたが“馬鹿ッ”頭を叩いてひっ始めた。

… 斎藤仲間など、森仲間数人が鎌倉に駆け付けてくれたので兼松仲間は、泣いて喜んだ。

● その他の報告

*その1／認証機関SGSを訪問

- FSC推進班は、申請準備のため「認証機関SGSとSAアミタ」を訪問した。認証機関による「民間人による私有林の認証は世界に未だ例がない。貴会の活動には、世界に問う意義がある。是非、進められたい。今まで通り、今、取り組んでいる通り進めれば良い」とのご指導であった。

*その2／C地区検査終了、D地区測量・契約

- 検査終了：平成15年度契約のC地区の森林整備は、相模湖町／産業建設部：武信検査員および神奈川県／森林保全課：厚沢検査員のチェックを経て終了した。

厚沢検査員の完了コメント：「県内の林业関係者の注目を集めようになつた現在、緑のダムはボランティアだからと言って検査基準を大目に見る訳には行かない。自覚するように…」との厳しくも暖かい評価であった。

- 測量・契約：C地区検査終了後の同日、平成16年度契約：D地区の測量を実施した。場所は、423-21林番463区：林道奥北東尾根、標高320m付近の右手、約0.6ha、檜林、樹齢6等級。暗く寂しい森。園田隊長は、「一度も手が入っていない。契約面積は、狭いが手が掛かる。作業計画をキチンとして掛けられ」と隊員にジャッキを巻いていた。

*その3／かながわ：水源環境政策

1) 3月30日：松沢知事・環境農政部長に面会

「県産材を使う」が知事の公約だから、それを形にする力のある当会の評議員をして頂いている黒川教授に同行願って松沢県知事、一杉環境農政部長、担当課長と話しあった。沖縄県を除いて神奈川県の木材出荷量は、全国最低の木材生産量である。我々の主張は「森林の持続的な維持・管理・保全には、森林自体の経済性が必要」と言う事で大変な力仕事になるが敢えてこれに取り組もうとする黒川教授の気迫に押されて同席の人々は奮い立った。

2) 4月13日：水源環境／出前懇談会：於／県庁



神奈川県では、「県民と一緒に考え・行動しよう」じゃないかと“県民集会・知事懇談会・出前懇談会・意見公募など”を実施した。森仲間は、各地に出没して森林現場の意見を発信した。

3月中旬、県企画部から当会に「出前懇談会をやらないか」と声がかかった。それではと当会の意見だけでは偏るし、意見の厚みに欠けるので

山林地主から都市生活者まで幅広く声を掛けた。

「山林地主～水源の相模湖町～素材生産者～県森連～森林NPO～製材・木材業者～建築士～大工棟梁～家具建具棟梁～都市生活者」の各層のリーダーを網羅した18人が集まった。全員、生活と自分の周辺にある問題点を赤裸々に述べたため迫力と厚みのある2時間となった。行政とここに集まった県民生活者との最も意識のずれは、以下の2点であった。

- イ、 行政に経営と言う事業感覚の無い事 … これでは税の垂れ流しになるに決まっている。
- ロ、 県民生活者に森林関連情報が伝わって来ない … 県産材住宅を建てたくとも情報がないなど。

総括として、新倉課長の「県として林業政策の抜本的な構造改革が必要と思った。皆さんと協働して進める」と言った。その言を待っていた。森林問題は、正しく相互、我々自身の問題なのだ。

3) 4月14日：情報が足りないと … 神奈川新聞社に協力依頼。

県は、あらゆる手段を講じて情報開示に努めていると思う。県民側に知ろうとする気持ち・努力が足りない。が情報開示の仕方にも工夫が必要でもっと身近な方法として新聞・TV・ラジオがある。そこで先ず、地元の神奈川新聞社に協力を求めるべく担当役員・報道部長・県政担当キャップに協力を求めた。快く協力してくれる事になって長期に特集など組むお願いをした。その他、NHKなど県政記者クラブ14社にもお願いしている。

只、活動を継続して来ただけなのに、こんな事になってしまって驚いている。こうなれば、やるしかないが、当会は“休まず、無理せず、急がず、楽しく、ボチボチと…、が体質でこうしてやろう、ああしてやろうなどと言う事には、ならない。そんな疲れる事は嫌だ。命を短かめる、続かない。…が、確実にやる。何をするか、何時するか、どのようにするかは、森が教えてくれる。

*その4／甲州古道：溝口相模湖町長とJR相模湖駅長

JR東日本との話し合いで各駅長にも話を通しておいて欲しいと

うとの話し合いで担当部署から沿線各駅（相模湖～笹子）の駅長にも話を通しておいて欲しいと依頼された。町の活性化のためになる事だから、ならと溝口町長に同行をお願いした。町長には、もち、異存がある訳がない。19日、相模湖駅に同行願って駅長を訪問した。環境省から当会の活動調査の委託受けた森つくりフォーラムも付いて来た。言うまでもなく、話題はスムースに進んだ。

● 嬉しい追加報告

1、森に参加している“東急コミュニティ”からの申し入れがあった。

今月の第三活動日欄に一部報告しているが、富田さん始め、東急グループの人々が熱心に森に参加してくれている。去る9日、プロジェクト推進部からの電話の内容は、以下の通り。

「当社では、NPOによるコンビニを経営しています。就いては、貴会の名による“緑のダム募金箱”を店頭に置きたいので承諾して欲しい。募金箱について提案があればお願いしたい」。

何んとまぁ、素晴らしい申出ではないか。東急グループは、法人会員になってくれた上、毎月10人以上の森参加があり、その上、ご来店のお客様にまで活動を普及しようと言う事である。もち、異存は無い。そこで閃いたのが、森の中に放置したままの杉・ヒノキを使って畠野仲間に作ってもらう。畠野仲間は、建具の名工なのだ。森は、何んと素晴らしい事をしてかしてくれるではないか。黒川康三社長には早速、礼状を出した。

2、こんな便りを受け取った。

便りの主：佐伯みちよさん

3月の活動に参加させて頂きありがとうございました。当日、遅刻して参加したため、参加費未払いのまま帰宅してしまいました。大変、申し訳ありません。お送り致します。

私事、この度、地球緑化センター「緑のふるさと協力隊員」として一年間、参加を欠席せざるを得ないことを非常に残念に思っています。「緑のダム」の活動は、仕組みが大変ユニークで親しみながらも、学んで行けるし、また他の班の活動も終礼で聞けて全体像がわかる所も魅力的です。FSCの事、目が放せません。私は、まだまだ勉強不足ですが、日本の森が元気になってシッカリ機能を果す事を望んでいます。「ふるさと協力隊」で沢山の事を吸収して帰ってきますので、また来年もよろしくお願ひします。「緑のダム」の輝かしい発展を祈っています。 2004、3、25

3、こんな事を言って來た人もいる。

ある仲間に会としての調査を依頼した。未だ、人件費は払えないが、交通費・通信費は請求して欲しいとお願ひした。交通費の申告書に添えてこんな事が書いてあった。「三軒茶～若林(会/事務)」まで歩いて行ける距離なのに電車を使ってしまいました。申し訳ありません。今後、気を付けます」

* 佐伯さんは、現金封筒で700円を送って來た。電車賃は、130円である。このような正直な人で構成されている当会が愛しい。こんな真面目な森仲間から構成されているのを「セブン-イレブンみどりの基金」が知って「何に使っても良い。領収書提出も必要ない」と協働支援して下さっている。あらゆる善意に支えられて当会がある。一銭たりともおかしなお金を使わない事が我々に課せられた道義・責務である。また、そうある事が会活動を強くし広げると思う。

● 特別の予告1、夜の森を歩く… 5月15日(土)、定例活動日の前日。

夜の森は、昼間と違った新しい発見がある。先ず、ムササビ・野鼠やフクロウなど哺乳類・鳥類。灯火に集まる昆虫など夜に活動する動物に巡り会える。何よりも彼によりも面白いのは自分が、全身感覚器官に変わる事である。人間は昼間性動物だから大部分が視覚によって判断する。が、夜は、回りが見えない。で、六感(聴覚・触覚・視覚・嗅覚・味覚・直感)をフルには働かせようとする。特に霧の立つ夜などは、自分が真っ直ぐに立っているかどうか分からなくなること事もある。空中に浮かんでいるのではないかと錯覚する事さえ。そんな異次元も経験もできる。

- 集合日時・場所・時間／5月17日(土)：何時もの炭窯広場、好きな時間において。参加費無料。
 - 持ってくる物／自分の餌、懐中電灯、テント、毛布か何か、何時も通りの滑らない履き物。テントの無い仲間は、何処かに潜り込めば良い。又は野宿。森林ボランティア保険を掛けるので申込要。
- 特別の予告2、毎年5月恒例 … 森の中の音楽会 … 新緑萌る5月18日。

英国BBC放送やNHKでも出演したネパール女性のスシャマさんが我々の森に来てインドの楽器：シタールとタブラ(小太鼓)で聞かせてくれる。伴奏のタブラは、ヒサモトさんがする。

司会は、スシャマさんを紹介してくれた河邑厚徳さんと計画している。

相模湖町では、「善意価値の交換：流域通貨リバー」が流通し始めているがドイツのミヒャエル・エンデが始めたこの思想をNHKの河邑さんがわが国に紹介して、当会との交流から相模湖町に紹介したのだが準備に3年掛けて流通が始まった。河邑さんには、スシャマさんの紹介とこの日の司会のお礼に相模湖町発行の「流域通貨リバー」で払う。



タゴール大学(インド)で学んだ。東芸大でも教えている。



シジュウガラが住み着いたと連絡があった。

日本各地で「地域通貨……」と名付けられて流通しているが相模湖町では「流域通貨リバー」と言う。相模川流域各地を善意価値の交換で繋ごうと言う気持ちが込めたのが発端である。

上流大月に河西仲間が「大月・森つくりの会」、中流／相模湖に「さがみ湖・森つくりの会」と相模原市に倉橋仲間の「鳩川水辺の森の会」

がある。下流に兼松仲間の「鎌倉・森つくりの会」。森林再生活動に連動して「桂川・相模川流域沿い」に森林の再生・保全の「“経済活動価値” + “善意・好意価値”」がリンクして流通するなら嬉しいじゃないか。青臭い・理想倒れと言うなけれ。理想や思想のない生き方がどんなに空しいものか。

甲州道中小原本陣宿

小仏峠より甲州方面へ下った甲州道中は、底沢川を板橋で渡り、さらに、大久保沢川を桶谷路橋で渡り小原宿東端を升型に屈折して小原宿に入ります。

往時、宿東端に道中奉行のおたっしの高札所がありました。現在もその前に広大な屋敷の本陣があります。この本陣は、往時より清水家が本陣としてその役割を果たしていましたが、現在では相模湖町が管理しています。神奈川県には、東海道と甲州道中合わせて26の本陣がありましたが、現存するのは小原本陣宿だけで、神奈川県の重要文化財に指定されています。

現在の建物は、凡そ200年前に建造され四層のカブト造りで屋根は茅葺きでしたが、今では新茶色のトタンに葺き替えられました。定紋の付いた玄関で、間口は13間（23.4m）奥行き7間（13.8m）の純日本風の建造物です。部屋数は15畳が2間、12.5畳が1間、8畳が3間、6畳が2間、2畳が1間、15畳の畳みが敷かれている「入り側」が奥の座敷に付随しています。

更に、15畳程の板敷きは、馬を繋いだと土間を抱いた古色騒然とした自在鍵のさがる囲炉裏があります。

この広い83坪の大名止宿の本陣らしい特色をうかがわせる廁（便所）と湯殿（風呂）があり、大名が使用した8畳の部屋は、上段の間と言われ、続く8畳の2間は側近や家老などの控えの間です。これに隣接する「入り側」は、要人たちの溜まり場でした。

上段の前の前庭には、徳川からの御下賜の泰山木、ドウダンツツジや松、500年の樹齢と言われるカヤの巨木などがあり、この由緒ある本陣の生きた証人として目を見張らせていました。次回は。小原本陣の役割と止宿した者を記録します。 … 文責 中里

報告したいこと感謝したいことが多くて、今月は、とうとう8ページにもなってしまった。これを毎月休まず続ける事は、それなりに大変だが、その大変さがそれなりに面白い…、脳天気なるが故に。脳天気でも、毎月発送後、独り善がりになってはいないか、間違った言動は無かったか、はたして読んで貰えるだろうかと心配でならない。たまに“読んでるよ～、いいんじゃない”と声をかけられると堪らなく嬉しい。森仲間みんなが活動を支えてくれている実感に疲れも取れる。 … 石村

1) 5月1日(第一回) 森林整備班／お休み
森を楽しんで欲しい。

2) 5月16日(第三回) 里山交流／お昼休み
は「森の中の音楽会」

* 4月29日：やまなみ祭り

* 5月 1日：川崎／子供の森つくり

* HP : <http://www008.u.p.p.s-p-n.e.t.jp/kita sagami>

モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと…
そして、沢山のご意見、参加下さい。

名 称／さがみ湖・森つくりの会(NPO法人緑のダム北相模/森林部会)
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9 石村
T & F 03-3411-1636
協働団体／セブン－イレブンみどりの基金